



強い財務基盤づくり

お客さまに安心して保険にご加入いただくため、さまざまな経営環境の変化にも対応できる
強固な財務基盤をつくりあげています。

品質保証新宣言

第二宣言 長期間の保険引受けを確実に支える財務基盤を維持、強化します。

自己資本の充実

当社は、お客さまから信頼される会社であり続けるためには、強固な自己資本基盤をつくりあげていくことが重要であると考えています。そこで、期間収益の確保に努め、危険準備金や価格変動準備金等の内部留保を積み上げるとともに、基金の追加募集や、生命保険会社の自己資本として制度的に認められている劣後債務取入れによる補完的な資本の調達にも取り組んできました。

今後は、株式会社化・上場の方針を踏まえ、リスク対比で十分な自己資本を確保しつつ、資本効率も意識しながら、リスク資産の適切なコントロール、事業構造の見直し、成長分野への資本投下、補完的資本調達手段の活用等を行っていきます。

自己資本

平成19年度末	2兆128億円
平成20年度末	1兆6,524億円

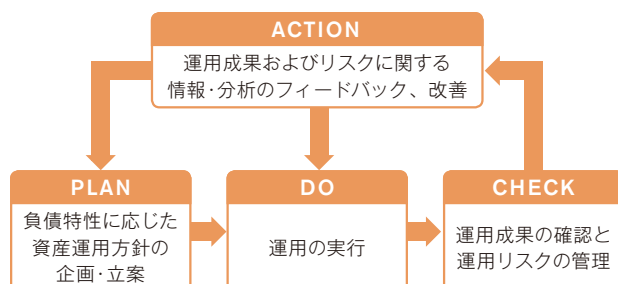
安定性の高い資産運用

■ 資産運用の基本的な考え方とプロセス

当社は、生命保険契約の持つ負債特性を考慮し、長期にわたる年金や保険金・給付金を安定的にお支払いすることを主眼として、ALM[※]（資産・負債総合管理）に基づく確定利付資産を中心とした運用を行っています。

また、経営の健全性を十分に確保した上で、許容できるリスクの範囲で株式や外国証券を保有することで、有

運用プロセス



利な資産運用にも努めています。加えて、きめ細かなリスク管理体制により、リスクのモニタリングと運用効率向上の両立を図っています。

当社の資産運用プロセスでは、運用成果とリスクに関する情報のフィードバックを通じ適宜分析と検証が加えられます。また、商品事業部門と連携し、常に負債情報を反映し、ALM運用を徹底する仕組みとなっています。

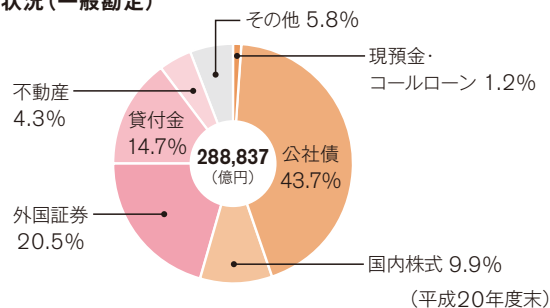
※ALM: Asset Liability Management

負債（保険契約）の特性に見合った資産を維持して将来の保険金などの支払いに備えるために、負債の金利変動リスクを定量的に把握し、そのリスク特性に適合した資産運用を実施することをいいます。

■ 資産の状況

平成20年度は、引き続き中長期の資産運用方針に基づき、公社債や貸付といった確定利付資産中心の運用を継続しました。また、長期・超長期の公社債を中心とした責任準備金対応債券の積み増しを実施し、ALMの推進および収益力の向上を図りました。平成20年度後半に入り世界的な金融市場の混乱が深刻化しましたが、分散投資による収益力向上を主眼に組み入れている国内株式や外国証券等のリスク性資産については、市場動向に留意しつつ、適切にリスクコントロールを行いました。

資産の状況（一般勘定）



■ 今後の資産運用方針

当社は、引き続き公社債や貸付などの確定利付資産をポートフォリオの核としつつ、分散投資によるリスクコントロールと収益の安定性を重視した運用を継続します。また、足元の市場動向に留意しつつ、リスクコントロールの観点から慎重に残高をコントロールしていきます。